

寄稿文「富士山遠望の最前線から」

文・写真 田代博

花塚山からの富士山

北限の富士

北限の富士の撮影、おめでとうござい
ます。撮影された3人の方、支えてこられ
た方々のご努力に心より敬意を払います。
菅野さんからご連絡をいただいた時に、
真っ先に思い浮かんだのは「夢はかなう」
という言葉でした。私自身、手計算で富
士山可視マップを作り、方面毎に富士山
が見える遠望の地を発表したのが31年前
でした。それ以来、ずっと追いかけてき
ましたので、感無量です。

私は「山と溪谷」誌2016年11月号
の山岳展望の特集ページに「最大の課題、
北からの富士遠望」という小文を書きま
した。その中で、「花塚山からの富士山撮
影に成功すれば、富士山の展望に関わる



課題は基本的に解決します」と述べました。それが早くも実現したことに驚いています。

この20年近くの間、各地から遠望富士が次々に撮影されてきたのですが、その中で、唯一残っていたのが、北限の富士でした。

かつて北限と考えられていたのは日山（二本松市・葛尾村）で、平成13年に証拠写真が撮影されました。しかし、理論上はそれより9 km北の花塚山ということは、マニアの間では平成6年から話題になっていました。富士山からの距離は308 km、北側で300 kmを超える場所はここ以外にはありません。

ただ、南（西）の和歌山から見るのと違い（富士山最遠望の地は和歌山県にあります）、間に遮る山稜があります。そのため、頭がごく僅か覗くだけであり、富士山と判断することは非常に難しいことはパソコンによるシミュレーションから分かっています。

それでも、光の屈折により冬場には見

える可能性はあります。このことに確信が持てたのは、平成21年に麓山から撮影された富士山の写真を見た時です（今回の撮影者のお一人である菅野さんも撮影されています）。

地元紙が大きく取り上げたのは平成22年1月でした。それからの経過については3人の方に譲りましょう。

私が登ったのは平成26年の暮れ。登山口付近に設置されたモニターングポストを見て、富士山遠望にも今の日本が抱える大きな問題があることを痛感せざるをえませんでした。

ところで、依頼を受け鑑定は慎重に行いました。最遠望の和歌山、西限界の京都、南限の八丈島でも鑑定を行っていたので、今回もその手法（写真とパソコンソフトで作成したCGとの照合）を用いました。間違いの無いことを確認したので、いよいよ発表。メディア関係者にも相談し、1月16日としたのですが、奇しくも菅野さんが最初に花塚山に登った日付でもありました。

その前日には、3人で花塚山に登り、ご一緒の写真が撮られています。実に良い表情です。時にはライブルでありつつ、夢を追い続ける仲間でもあったわけ、3人の力で成し遂げられた偉業というところがよくわかります。

それにしても、改めて思うのは、この、ホンの僅か頭を見るために、これだけのエネルギーを注ぐ。それをさせる富士山の偉大さです。富士山はすごい！

私は富士山を「見力（みりょく）の山」と呼んでいます。見る者に力を与えてくれる山、という意味です。300 km以上離れた川俣町のみなさんにとっても富士山が「見力の山」であり続けることを願っています。



たしろ ひろし

1950年、広島県尾道市生まれ。日本の地理学者、地理教育者。42年間の高校教員生活を経て、一般財団法人日本地図センター常務理事・地図研究所長。富士山をこよなく愛す。全国の主な山、町からの山岳展望図の作成と富士山が見える地域の図化・限界の地の確認（鑑定）、そして総合科学としての山岳展望学の確立をライフワークとする。地図や山岳展望、富士山に関する著書多数。